宿場めぐり MAP 日光街道 栗橋宿

0m 100m 200m

アイコン説明

史跡・旧跡 / 静御前の墓 / 関所・渡し / 神社 / 寺院 / 八福神 / 静桜 / スタンプ / お食事処 / お土産処 / トイレ / 駐車場 / 御宿場印販売所

房川渡跡

「房川渡」は、日光街道栗橋宿・中田宿間の利根川に設けられた渡船場で、江戸時代には重要な交通手段として利用された。その位置は、平成21(2009)年に確定し、河川敷内の跡地には案内板が設置されている。

栗橋関所址碑

栗橋関所は、明治2(1869)年に廃止されたが、大正13(1924)年に利根川橋の開通を記念して、近隣の人々によって、栗橋関所址碑が建てられた。

経蔵院

病に倒れた静は、経蔵院で養生に努めたが、ここで生涯を閉じた。主人を亡くした侍女・琴柱は剃髪し、西向尼と名乗り、静を弔うために京から静の御持仏を持ち帰って、経蔵院に本尊として祀ったと言われている。

一言明神

侍女の琴柱は亡くなった静の妄念を鎮めるため祠・一言明神を経蔵院内に建て、そこで一生を送りながら、里の人たちに唄や舞を教えたと言われている。静を慕う琴柱の活躍によって、長い間、途切れることなく、栗橋と静の関係が残されている。現在は墓所の隣地にある。

静御前の墓

享和3(1803)年、関東郡代であった中川飛騨守忠英は、栗橋にあった高さ約20m、幹周り約7mほどもある杉の大木に寄り添うように「静女之墳」を建立した。

日光街道・奥州街道 栗橋宿 御宿場印

日光街道・奥州街道の宿場町では、訪宿を記念した「御宿場印」があり、栗橋宿では市内の7か所で販売しています。

福寿院(福禄寿)

深廣寺(恵比須)

六角名号塔

深廣寺の2代目住職である単信上人によって建立された供養塔で、側面には、南無阿弥陀仏の六字が六面に刻まれている。高さは360cmで、承応3 (1654)年から明暦2(1656)年の間に20基が建てられた。その後、明和3(1766)年に9代目住職法信上人が1基建立した。

日光御廻道

日光街道の幸手宿と栗橋宿の間は、洪水により通行不能となることがあったため、日光社参の徳川将軍通行の際に洪水に遭遇した場合の迂回路として江戸時代後期に設定されたといわれる約3里にわたる道。

炮烙地蔵

関所破りを企てた者が、重罪人として火あぶりの刑に処された場所だと言われている。こうした多数の処刑人を憐れみ、火あぶりになぞらえて、その後土地の人が供養のために炮烙地蔵として祀った。

浄信寺(寿老人)

顕正寺(毘沙門天)

吉田家水塚

市内の商家の水塚としては、唯一現存する貴重な市指定文化財で、洪水から人命や財産を守るためにつくられた。大谷石で囲まれた高さ約2mの塚の上に「大蔵」と「向う蔵」の2棟がある。